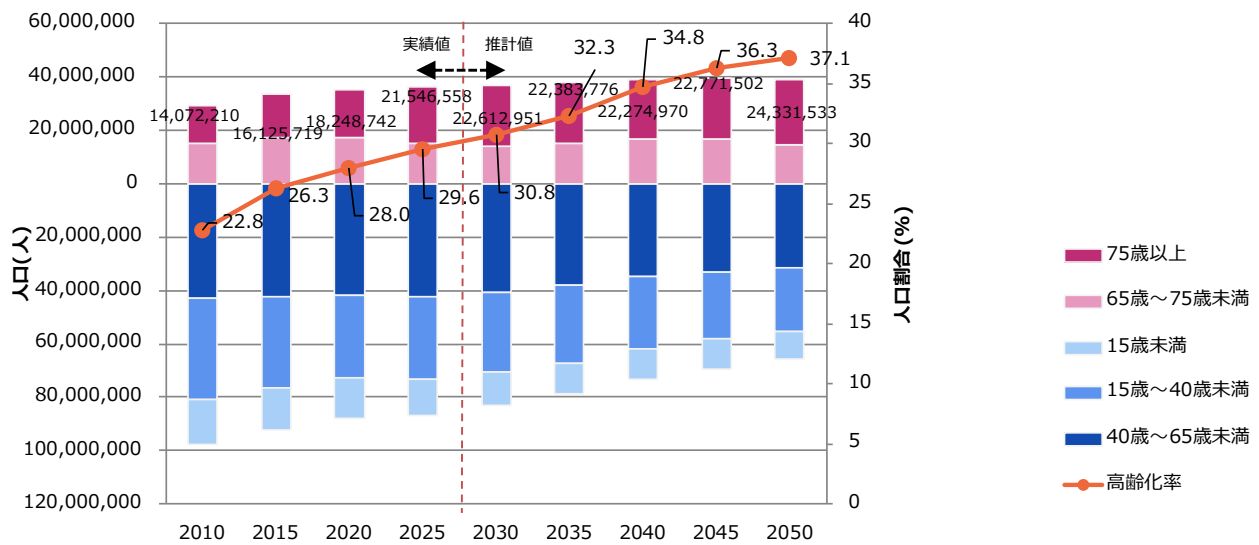


介護保険にかかる現況について

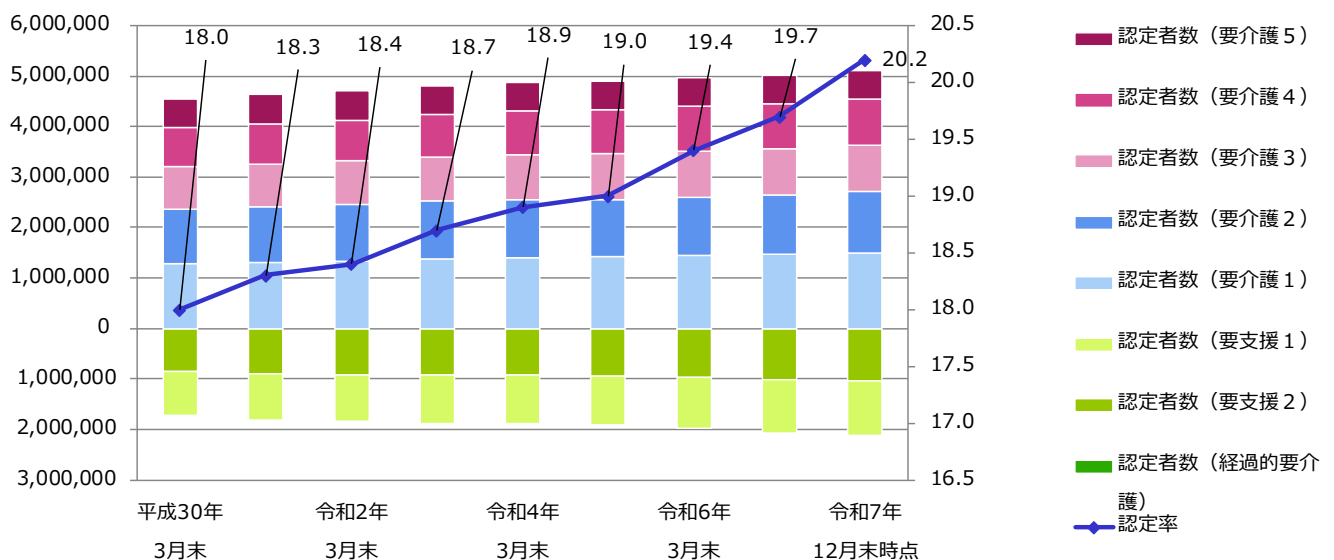
1. 全国の人口の推移



資料：地域包括ケア「見える化システム」

○2010年に約1,400万人だった75歳以上人口は、2050年には約2,400万人を超え、全人口の約4分の1を占めるようになる見込みです。

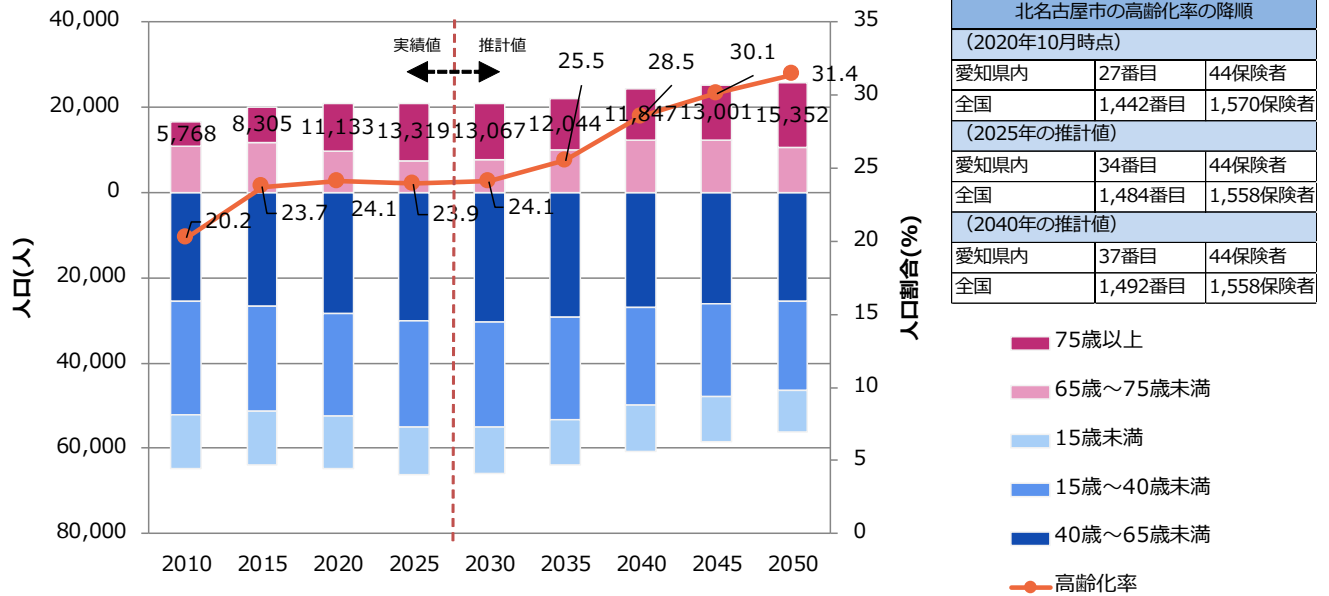
2. 全国の状況（認定者・認定率）



資料：地域包括ケア「見える化システム」

○要介護4および5の認定者数は、令和7年末時点で計約146万人に上ります。また、「要支援1」と「要支援2」を合わせた人数は、平成30年の約172万人から、令和7年末には約211万人へと急増しています。

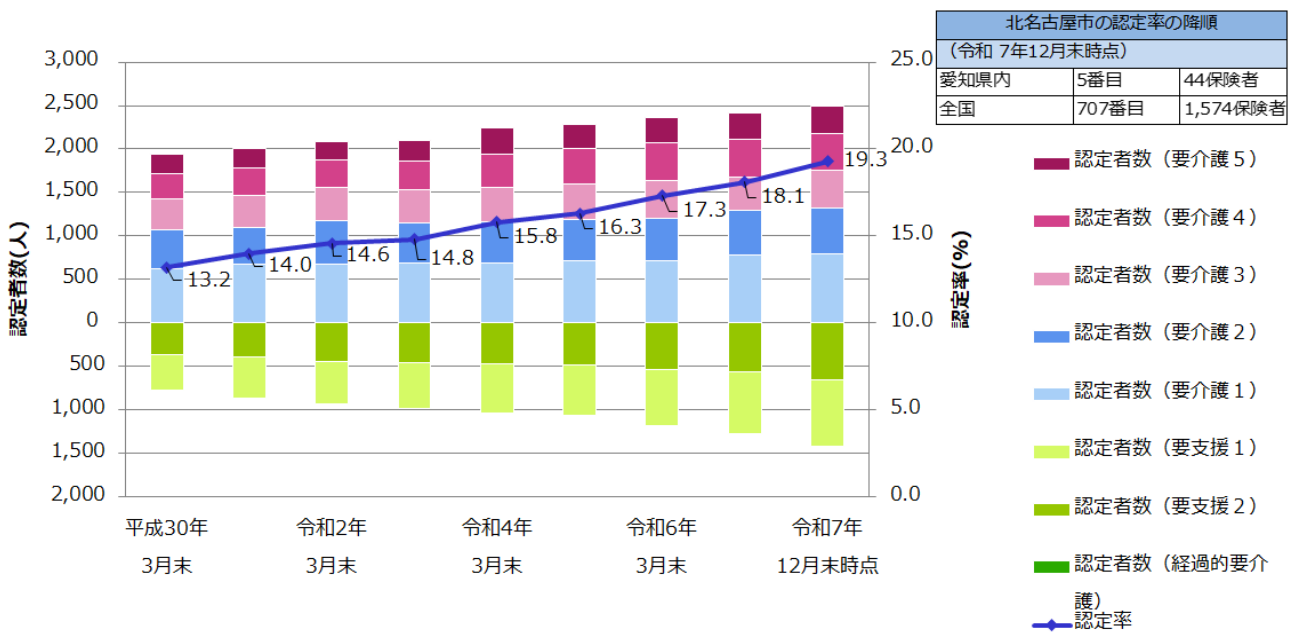
3. 北名古屋市の人口の推移



資料：地域包括ケア「見える化システム」

○高齢化率は2010年の約20%から、2050年には30%を大きく超える予測となっています。特に75歳以上の人口が2010年の5,768人から2050年には15,352人へと、約2.6倍になる見込みです。

4-1. 北名古屋市の状況（認定者・認定率）

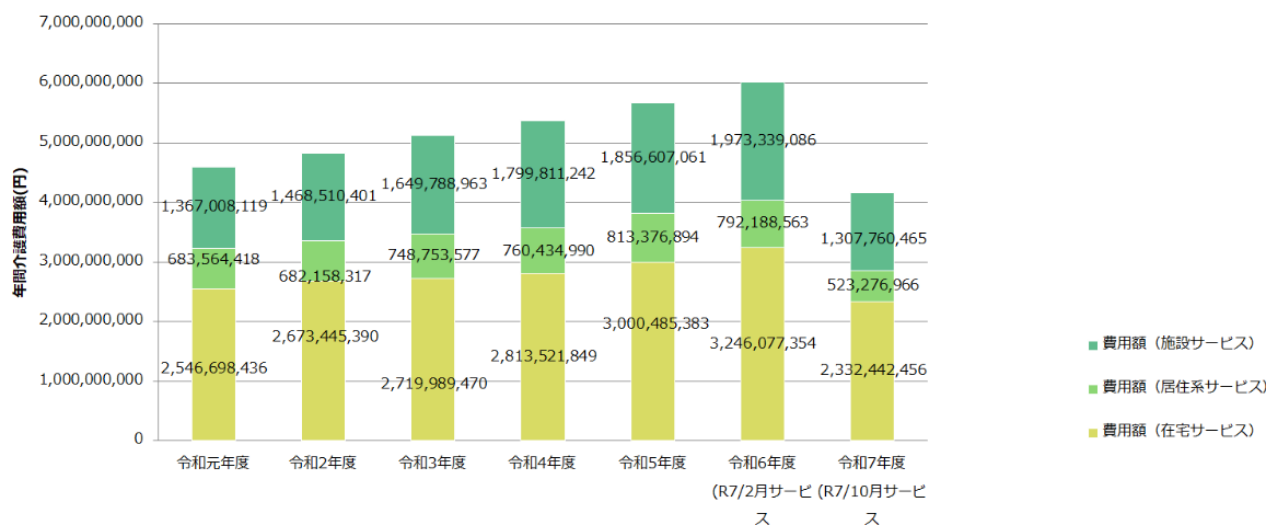


資料：地域包括ケア「見える化システム」

○要介護・要支援の全ての区分で認定者数が増加し、認定率も平成30年3月末の13.2%から、令和7年12月末時点では19.3%まで大きく上昇しています。介護現場での「人材不足」の深刻化と、「保険料の上昇」や「財政確保」が極めて大きな行政課題になってきます。

4-2. 北名古屋市の状況（サービス）

■年間介護費用額の推移



資料：地域包括ケア「見える化システム」

■受給者数の推移



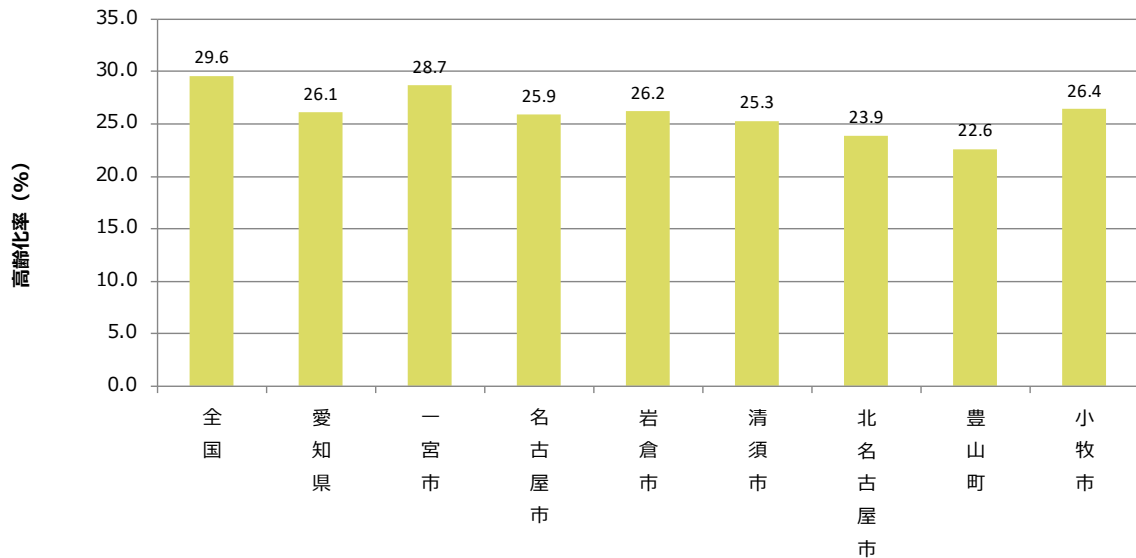
資料：地域包括ケア「見える化システム」

○年間介護費用額は年々上昇しており、市の財政における介護費の負担が重くなっています。令和元年から、令和6年度で約30%増加しています。総受給者数も年々増加しており、令和元年から、令和6年度で増加率は約21%となっています。特に在宅サービス費や利用の伸びが大きく、地域で暮らし続けるための支援体制強化が重要となっています。一方で施設サービス費や利用も増加しており、重度化への対応や施設整備、人材確保も継続的な課題と考えられます。

5-1. 全国・県・近隣市町との比較（高齢化率・認定率）

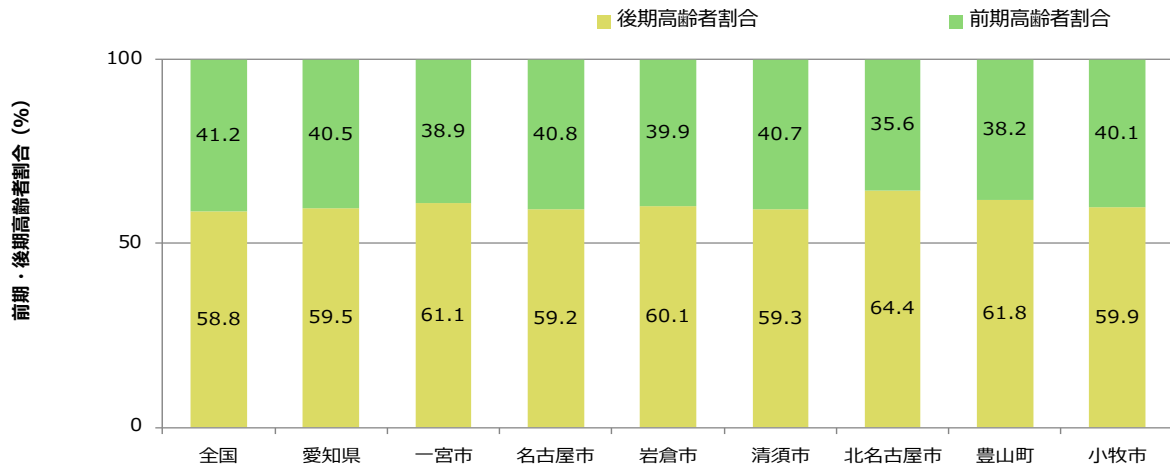
○北名古屋市の高齢化率は全国・県・近隣市町の中で、豊山町に次いで低くなっています。
 後期高齢者率は県・近隣市町の中で一番高く、全国よりと比べても高くなっています。
 要支援・要介護認定者率は県・近隣市町と比べて高い傾向にあります。

■高齢化率の比較（令和7年）



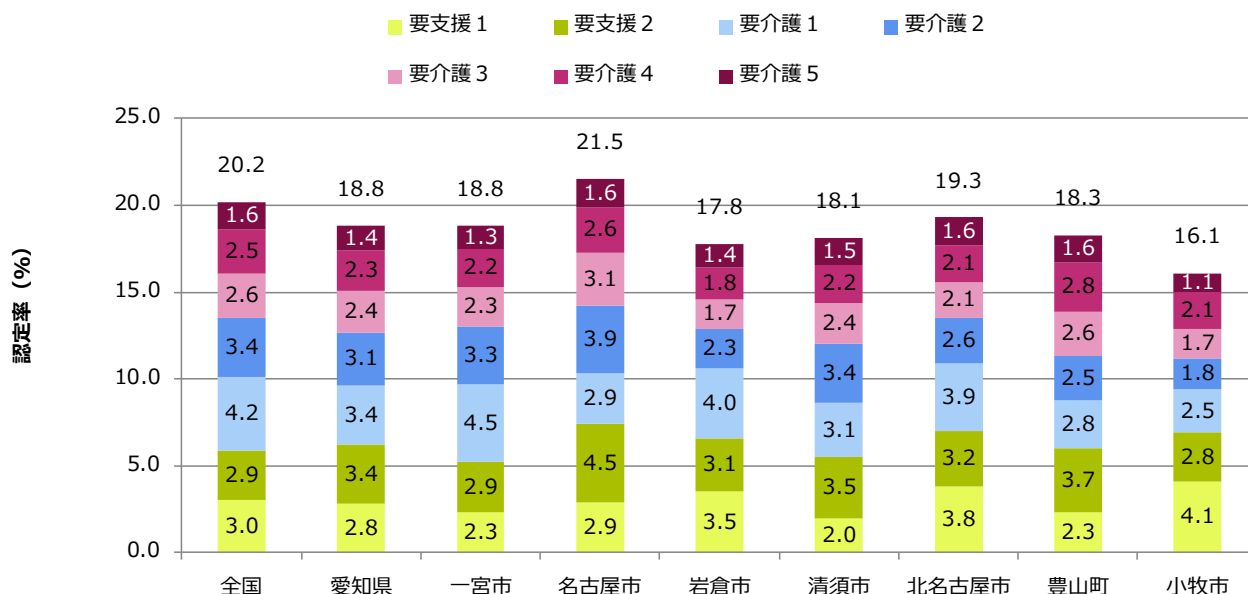
資料：地域包括ケア「見える化システム」

■前期・後期高齢者率の比較（令和7年）



資料：地域包括ケア「見える化システム」

■要支援・要介護認定者率の比較（令和7年）



資料：地域包括ケア「見える化システム」

■ポイント

- 高齢化の進行に伴い、全国的に75歳以上人口や要介護認定者数が増加しており、北名古屋市においても同様の傾向がみられます。特に後期高齢者人口の増加が顕著であり、今後さらに介護需要の拡大が見込まれます。
- サービス別では、在宅サービスの利用と費用の伸びが特に大きく、「住み慣れた地域で暮らし続けたい」というニーズの高まりがうかがえます。そのため、介護予防、生活支援、在宅医療、地域包括ケアの充実など、地域で支える体制強化が重要となっています。
- 北名古屋市は高齢化率や認定率、保険料が全国・県・近隣市町と比較して低い水準にある一方、後期高齢者率は高い状況にあります。今後の人口構造の変化を見据え、持続可能な介護保険制度運営と適切なサービス基盤整備が求められます。